

【瀬谷区】令和 4 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 4 年 9 月 2 日 9 時 00 分 ～ 10 時 50 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>【座 長】久保和弘議員</p> <p>【議 員： 2 名】川口広議員、花上喜代志議員</p> <p>【瀬谷区： 3 1 名】植木八千代区長、村上謙介副区長、 松永朋美福祉保健センター長、 伊藤ゆかり福祉保健センター担当部長、 富永裕之土木事務所長、 安平博災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議 題	<p>(1) 令和 3 年度 個性ある区づくり推進費 決算状況</p> <p>(2) 令和 3 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の決算</p> <p>(3) 令和 4 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の執行状況</p> <p>(4) 令和 5 年度 個性ある区づくり推進費 予算編成にあたって</p>
発言の 要 旨	<p>花上議員：かねてより林市長の時代から区民満足度調査を実施し、その結果を公表してきたが、今瀬谷区の区民満足度はどのような状況か伺いたい。</p> <p>堀内区政推進課長：令和元年度に区民意識調査を実施し、次回は令和 5 年度に実施を予定しています。</p> <p>花上議員：すなわち直近の数字は令和元年度であり、新しい数字は令和 5 年度を待たなければ出てこないということか。</p> <p>堀内区政推進課長：そのとおりです。</p> <p>花上議員：この調査は我々も極めて関心を持っている。長年市会議員を務めてきたが、昔は区役所・市役所ともに市民に不親切といわれる声が多く多かった時代があった。議会でも市民はお客様である、市役所は市民に役立つ所、区役所は区民に役立つ所と書くのであるから、市民・区民に親切な市役所・区役所にしなければならないのではないか、と言いつけてきて、林市長の時代におもてなしという言葉を使って、お客様</p>

として市民・区民に対応していくという方針を出した。その後具体的な数字が出てきて、市民・区民から横浜市役所・区役所は非常に親切である、市民、区民として満足度が高まってきて90数パーセントという驚異的な数字の伸びであったが、今はどうか。

植木区長：区政推進課長が申し上げたのは区民意識調査であり、先生がおっしゃったのは区民の方の満足度、窓口サービスとしての満足度ということになりますが、コロナの影響でここ2年調査が行われていません。今年度は若干方法を変更して実施すると市民局から説明を受けています。

堀内区政推進課長：直近の数字を申し上げると、今区長から説明があったとおり、令和2年度、3年度は未実施であるため、令和元年度において99%の方から「満足」あるいは「やや満足」というお答えをいただいています。なお、全区の平均も99%です。

花上議員：今の数字は我々議員としても高く評価をしている。それだけ市役所の職員が市民にしっかり対応しているという裏付けになる数字であるので、引き続き気持ちを緩めずに今後もさらに高い満足度の数字をいただけるように頑張っていたきたい。

様々な事業がデジタル化した中で区役所も対応していると思うが、オンラインやWebを利用して会議を行っている中で何か問題点が明らかになっているか伺いたい。

植木区長：オンラインやWebで行う会議というと、特に講演会方式のものは一方的にお伝えすることが多いものなので、Web開催のほうがわざわざ足を運ばなくても済むことで参加者が増えるのではないと思っています。ただ一方で、WebだけにしてしまうとWebの環境を持たない方が参加できないということもあり、Webと現地のリアルのものとの併用をしています。また、何回か区役所と地域の皆様とでWebで会議を行っており、ほとんどトラブルがなく進んでいるが、状況によって回線が途切れてしまったり、会場の雰囲気が直接わからない時があるということで、全部をWebにしきれるかということについては私どもも悩みながらやっているところです。

花上議員：区長がおっしゃったように、オンラインやWebの会議については良い面と悪い面があると思うが、基本は対面式で行っていくことが大切ではないかと思う。しかし時代は時代であり、それはそれという

こともある。やはり問題があるとすれば、通信が途切れてしまうことがないように対応することが大事である。不都合がないよう万全を期した対応をしていただきたい。

コロナで中止となった事業がいろいろあり、コロナ蔓延の中で医療関係者、医療従事者の方々と連携をとって対応していると思うが、医師会、歯科医師会、薬剤師会その他医療関係者との連携は上手くいっているのか。

松永福祉保健センター長：3師会との連携状況ですが、年に一度、医師会、歯科医師会、薬剤師会との連絡会を開催しています。また、医師会については月に一度、医師会の会議に出席させていただきながら、コロナの蔓延状況やご協力をお願いをさせていただいています。中でもコロナに関しては集団接種会場でワクチン接種の従事をお願いしたり、医師会の皆様にはPCR検査をお願いしています。また、日頃の乳幼児健診においても感染対策に配慮させていただきながら、医師会・歯科医師会の皆様には従事のご協力をいただいています。特に第7波では自宅療養者が非常に多い中で、神奈川モデルと言われていますが、自宅療養者見守り支援事業を昨年の12月末に協定締結していただき、第6波に比べて第7波の方が相談させていただく件数が増えました。4月から20件弱の自宅療養の方々の見守りをお願いしています。引き続きその他の情報もやり取りしていただきながら、連携を図ってまいります。

花上議員：コロナ対策は神奈川県が権限や財源を持っており、県知事が常にマスコミに登場し、様々な考えや実態について発言している。今話題となっている感染者の全数把握の見直しについて、全国の知事会で黒岩知事は全数把握を見直すよう言っていたが、今日のニュースでは実態を見極めるため、今後の推移を見守っていくよう考え方を改めたとあった。権限や財源が県知事にあつて何でも県知事が表に出ているが、実際に現場で仕事をしているのは市町村、基礎自治体である。基礎自治体の考えが十分理解できないまま、全数把握を止めるべきであると言ったこと自体が大変問題であった。現場で仕事をしている瀬谷区役所、横浜市役所の職員から見れば、何故県知事があのような発言をしたのか、と思ったのではないか。実際にコロナ対策に従事している医療関係者や市の担当者から見て、こうあるべきであるという考えは当然あると思う。そうした声がきちんと県知事に上がっていなかったのか、またはそれを無

視したのかと思ったが、このような県知事の発言というのは現場から見ていかなものか、と我々も思っている。県知事を批判するようなことは言いにくいだろうが、全数把握見直しについてはこれからまだまだ議論が続いていくと思う。横浜市役所、瀬谷区役所から見て、コロナの全数把握についてどのような問題があるかということについて考えがあると思うが、実態からどうあるべきであると考えているのか伺いたい。

植木区長：区役所の職員にいろいろと配慮いただきありがとうございます。第7波では感染者が急増したことから、福祉保健課、福祉保健センターを中心に対応しながら、区役所の中でも応援体制を組みながら何とか対応できているという状況です。様々な形で見直しの議論がされていますが、ただサービスを必要とする、見守りを必要とする方が一定数いらっしゃいます。色々な形でこの方たちを、と決めてしまうとたまたま網から漏れてしまう方が出てしまうことも事実だと思います。そうした中でどう限られたマンパワーを生かしながら対応していくのか、県もその点を考えて様々な検討を行っているのであろうと理解しています。引き続き必要な方に必要なサービスがちゃんと届くように、また見守りの対象になっていない方でも危険がある方に関しては、できるだけ早期にキャッチできるよう対応してまいりたい。そうした区の実態については、もちろん市も把握しています。入院調整については県の協力もいただきながら行っているが、できるだけコロナによって残念な状況になる方が少しでも減るような対応をこちらも考えていかななくてはならないと思っています。

花上議員：今話があったように、必要な人が必要な治療を受けられるような万全を期した取り組みが大事である。横浜市は人口が380万人もいる大都市であり、47都道府県の中で全国10位の静岡県の人口よりも横浜市単独の人口の方が多い。それだけに横浜市の声が県に反映しないということは制度的におかしいと思う。コロナ対策などについては、横浜市のような政令指定都市は独自に国から移譲された権限や財源で表に出て、いろいろな実態を踏まえた対策を講じていくべきである。これは今後の課題であるとしても、我々は議会で訴えていきたい。いずれにせよ、今在宅で療養している方が増えていることから、万が一のことがあっては大変であるので、そのようなことがないよう現場の声をしっかりと上にも届けていただくようお願いしたい。

コロナで商店街が疲弊しており、地域を回っていると店を閉めたとか、近々店を閉めなくてはならないのではないかという声を聞く。商店街の実態について、区役所として何か分かっていることはあるか。

松岡地域振興課長：ご指摘のあったとおり、商店街が疲弊しているという状況は聞いています。実際に話を伺うと人出は戻りつつあるものの、高齢者の方がなかなか戻ってこない、夏休みで普段であれば商店街に来るようなお子さんがなかなか出てこないということです。一方で、区づくり推進費を使って8月31日まで行っていた商店街の支援イベントが2つあります。レシートキャンペーンについては冬にも行いますが、夏は162件の応募で100万円の還元を行っているほか、ウォークラリーには557件の参加があり、昨年度に比べて1.63倍増えていることから、客足は少しずつ戻りつつあるのではないかと考えています。引き続き商店街の皆さんと連携をとりながら、どのような形で支援を行っていくのか検討してまいりたい。

花上議員：商店街のイベントは色々毎年行われているが、今年は各商店街のお祭りなどもほとんどが中止となり、商店街自体も元気がなく、このような状態がいつまでも続いたらたまらない、という声が多く聞こえてくる。そうした中でイベントは中止になったが、商店街の個店の方々が窮地に陥るようなことがあってはならない。一義的には経済局が対応していると思うが、商店街の方々が国や横浜市の制度を利用してお金を借りて食いつないできたものの返済の時期に差し掛かってきている。返済が始まったら経営が立ち行かないという話も市全体で聞こえてくる。瀬谷区としてそうした実態をつかんでいることはあるか。

松岡地域振興課長：実際に商店街の方と話をすると、昨今の光熱水費や原材料費の高騰で、例えば昨日もサラダ油が1缶4,700円であったものが今6,700円になって経営が成り立たないということもお聞きしています。いろいろな制度をご紹介することはできますが、区役所として個別の商店の方への支援というのはなかなかできないという現実があります。

花上議員：商店街の実態について今話を伺ったが、横浜全体として取り組まなければならない課題もあると思うので、これから決算特別委員会などの場で私も質問をしていこうと思う。引き続き現場で商店街を見ている区役所の皆さんがこうした方がよいと思うことがあれば、経済局に

しっかり伝えてもらいたい。

一方で物価高により市民の皆さんが非常に苦しんでいる状況がある。生活保護についても区役所で対応していかなければならない政策があると思うが、このコロナ禍で第7波が収束しないという状況において、瀬谷区民の皆さんの暮らしぶり、高齢者だけではなく障害者の方など様々な社会的弱者と言われるような方々の暮らしに寄り添っていかなければならないと思うが、実態を踏まえた考えがあれば伺いたい。

中村生活支援課長：生活困窮者自立支援制度の状況ですが、コロナの影響という点で令和3年度と令和2年度を比較すると、生活困窮者からの相談数、申請数ともに高い水準を維持しています。令和4年度に入ってから生活保護は4月から6月にかけて若干の増加傾向にあることから、引き続き相談を聞いて寄り添った対応をしてまいりたい。

花上議員：生活が苦しくなった方で生活保護を申請する方々が増えているということだが、窓口で担当している職員の立場から非常に判断が難しい場合があると思う。現場の職員が生活保護の申請を受けるに当たって、今問題点はあるのか伺いたい。

中村生活支援課長：窓口での申請受理に関しては、2年ほど前に神奈川区で申請の受理を拒否してしまった事件があったことを機に、局でもプロジェクトを組んで対策をとっています。まずは申請の受理を拒否するようなことがないよう、現場でも徹底しており、特段問題はないと考えています。

花上議員：子育て支援について伺いたい。相変わらず幼い子に対する虐待や死に至らしめるというような痛ましい話が報道を通じて流れてくるが、瀬谷区役所として子育てについて悩みがある方に対してしっかり対応するような取り組みをしていると思う。虐待や家庭に問題があることを早めに察知するよう工夫をした取り組みが行われていると思うが、どのような取り組みが行われているか伺いたい。

小澤こども家庭支援課長：18区共通の取り組みとして、児童虐待対応を強化するため、昨年度から2か年に渡ってこども家庭総合支援拠点という機能を各区に付加しています。瀬谷区は先行区であったため、昨年度から増員して対応を強化しています。増員の内容としては、専任の社会福祉職が1名、会計年度職員が5名で、現在これまでの係長と保健師1名ずつを加えた計8名体制により虐待専従で対応しています。また、工

夫した点としては、各小中学校と連携を密にとることにより、毎月区で支援しているお子さんの出席状況や何か変わった様子はなかったかなどの情報を共有する仕組みにより状況が悪化することを防止したり、保育園・幼稚園にもこれまで以上に訪問したり、状況を確認に伺うことにより、虐待が疑われるお子さんの状況を速やかにキャッチできるような仕組みを設けています。そのほかにも地域の皆様向けに講演会を実施したり、区連会などで情報提供するなど、気になるお子さんがそのまま放置されることがないように、まずはキャッチする、情報をいただくという点について様々な場でご説明させていただいています。通報件数もその前に比べると100件位増えているような状況であり、それらにしっかり対応する職員も増えたというような状況です。

花上議員：いずれにせよ事件に至る前にしっかりと対応することが大切であるので、引き続き区役所として若いお父さん、お母さんと話し合っ
て事前にしっかりとした対応ができるように進めていっていただきたいと要望しておきたい。

防犯に関して、依然として特殊詐欺の事件が続いており、瀬谷警察署の署員と話すときも瀬谷区内でも特殊詐欺の話が出てくる。瀬谷警察署と連携を取りながら対策を進めていると思うが、防犯の視点でどのような連携が取られているのか、問題はないのか伺いたい。

松岡地域振興課長：昨年の10月に瀬谷警察署との間で振り込め詐欺防止の協定を締結し、区役所で貸し出している振り込め詐欺防止のための電話に取り付ける録音機能付きの機材を、警察署に相談に来られた方にも常時貸し出せるようにしています。昨年度の実績では、231台貸し出したもののうち80台が警察を通じての貸し出しでした。実際に振り込め詐欺の事件が起きた場合については、警察から情報をもって瀬谷区の防犯メールをすぐに送信するよう対応しています。毎月開催する区連会にも警察が出席し、犯罪発生状況について共有しています。

花上議員：防犯は区政においても極めて大事なことである。ただ警察は神奈川県
の所管であるため、必ずしも一体的に活動ができないもどかしさはあるかも知れないが、制度上の問題はあったとしても引き続き防犯において警察と連携を取って事件を減らす、防止する取り組みをしていただきたい。

消防署に関して、消防団員の充足状況について伺いたい。

安平瀬谷消防署長：瀬谷区では消防団員の定数は310人です。昨年度は100%達成しましたが、年度替わりで退団される方もいらっしゃったため、現在15人ほど欠員が出ている状況です。色々なイベントで声を掛ける中で希望者もいらっしゃるの、これから入団促進してまいりたい。

花上議員：最近は全市的に女性の消防団員が増えているようだが、瀬谷区はどのような状況か。

安平瀬谷消防署長：割合としては25%が女性です。

相馬瀬谷消防署副署長：女性消防団員の人数としては74名です。

花上議員：今の数字を聞くと、年々女性消防団員が増えてきているような印象を受けるが、女性消防団員が消防活動をする上で特段問題があるようなことはないか。女性消防団員から署に対して何らかの要望が寄せられていないか。

安平瀬谷消防署長：先般講習を開催した時なども皆さん参加いただいております、特段不満などの声は届いておりません。皆さんやる気を持っていただいていると認識しています。

花上議員：その話を聞いてよかったと感じている。引き続き消防団の方々の活躍なくしては地域の安全は確保できないと思うので、消防署と消防団が一体となってしっかり活動していただきたい。

ムクドリ対策について、3回鷹匠を呼んで瀬谷駅前から追い払ったということだが、昨日確認したところ、確かに瀬谷駅前からはムクドリがいなくなったが、マルエツの方からムクドリが結構鳴いている声が聞こえてきた。そちらに移ってしまったということか。

富永瀬谷土木事務所長：おっしゃるとおりマンションの前の高木からは減りましたが、マルエツの前に若干戻り始めているという状況です。現在の委託が10月までの期間であるため、戻り状況を見つつ、戻ってくる状況が酷いようであれば追加の追い払いを実施し、様子を見ていきたい。

花上議員：駅前のマンションの前の木から追い払っても、他所に飛んで行ってしまふ。いたちごっこと言うが、ムクドリごっこのような実態で、また別のところから苦情が出るというのは好ましくない。何かよい方法はないか。今の話だとマルエツの前のムクドリを追い払うために、また鷹匠に来てもらうということだが、それしか解決の方法はないのか。

富永瀬谷土木事務所長：ムクドリ対策については、先進的に取り組んでいる自治体もあるようですが、やはり知恵比べのような側面があります。天敵が少ない所に来るといふ習性があり、駅前で他の鳥が飛んで来ないような所に集まって来るといふようです。土木事務所の中でも、例えば鶴見駅前など他区でも「集まって来ていることについて何とかして欲しい」といふ声も上がっていると複数聞いています。戸塚でも実施し、瀬谷でも実施した中である程度効果は見えているといふところはであり、磯子の駅前等にも集まるといふ知見は土木事務所間でも共有できていますが、追い払った後にどこに行くのかといふことについては把握しきれないことから、引き続きノウハウの蓄積を図っていかなければならないと考えています。瀬谷区からいなくなっても大和市などに行ってしまうといふことにもなりかねないので、方法と効果、その後どこに行ったのかといふことについては、18区で共有しながら対応していきたい。所長会でも情報共有を進めており、どういったことが我々として取り組めるのかが課題であると考えています。

花上議員：そのとおりだと思ふ。18区の土木事務所の所長が集まる場でムクドリの話をしているといふことだが、私も戸塚駅のムクドリの凄さは見て驚いた。電柱に沢山のムクドリがとまって鳴いている姿を見て、瀬谷の比ではないと思つた。横浜全体、日本全体がそのような状況にあると思ふが、引き続きしっかり対策を講じてもらいたい。

瀬谷フェスティバルについて、私もあちらこちらから聞かれる。瀬谷フェスティバルは本当にやれるのか、聞かれることもあるが、飲食を伴うといふ今までのやり方について、今回もそれを考えているといふことだが、そうした点を踏まえて見直しについて伺いたい。

村上副区長：現在、瀬谷フェスティバル開催といふ方向で調整を進めているところだ。ご心配いただいた感染症対策は非常に大きな課題であり、まずは基本的な対策として入場時の検温や消毒、また今回手洗い場の増設を考えています。飲食を伴うといふ点に関しては、従来出店ブースが川の字のように並んでいましたが、今回会場のレイアウトを見直し、屋外のイベントではあるが物品販売や展示エリアと食事エリアを明確に分けるといふ形をとり、来場者同士がなるべく間隔を取れるようにしたいと思つています。具体的には、出店ブースはコの字型に並ぶようにして真ん中に大きなスペースを作ることと考えています。加えて、レ

ジャーシートを活用して、ご家族で来られた方、グループで来られた方がお互いに出来るだけ間隔をとるような形で進めてまいりたい。また、出店ブース数も減らすほか、従来東側で行っていたフリーマーケットを今回無くすことにより、全体的に間隔をとることで調整を進めているところです。併せて、コロナ関係のアプリの導入の推奨や従来は実施していませんでしたが、入場時に来場者のカウントを行い、非常に混み合うようなことがあれば、入場制限をかけるという対策も考えています。いずれにしても来場される皆様のご協力も必要であり、皆様のご協力をいただきながら安心して、楽しい瀬谷フェスティバルを実現できるよう引き続き調整を進めていきたいと考えています。

花上議員：今の話を聞きながら、担当者は苦労していると思うが、開催すれば何万人という方が来場する可能性があることから、感染症対策は万全を期していかななくてはならない。担当者や出店する皆さんも感染症対策では非常に苦労されると思う。先ほど話したように、商店街のお祭りなどもほとんど中止となったが、瀬谷駅前のいちよう通り商店街のお祭りでは若い方も沢山来て、露店も多く出ている。瀬谷フェスティバルを開催すれば大勢の来場を想定しなくてはならない。今、入場制限も考えるということであったが、トータルで感染者を出さないような工夫については、あれだけ広い場所で管理することは非常に難しいと思う。感染した方が後遺症で悩んでいるという報道もある中で、感染者を出さないためのそうした工夫という点においては、できる限り万全を期していかななくてはならない。担当の方々、出店する方々の苦労は想像に難くないところであるが、出店する方や舞台上で踊る方々は様々なことを考えていると思う。そうした関係者との話し合いをしていると思うが、そのあたりの意思疎通は上手くいっているのか伺いたい。

松岡地域振興課長：出店される方や出演される方については、今ちょうど募集が終わった段階になるため、これからお話をさせていただくところです。特に沢山の出店者がいるため、文書等でも伝えつつ、口頭でもしっかりと話を進めてまいりたい。

川口議員：予測の立たないコロナ禍の中で、区民の安全・安心な生活の担保をしていただき感謝する。先ほどまで外から赤ちゃんの声が聞こえてきて、瀬谷区の未来、横浜市の未来を支える存在を傍に感じて非常に心強く思うとともに、身を引き締めて本日の会議に出席させていただ

ている。

瀬谷フェスティバルについて質問したい。開催に向けて皆さんが準備を進めていることについては今伺ったが、一方で感染状況という点から、これだけ大きなイベントについて開催ができないと判断をする時には迅速に行わなければならないと思うところである。判断が難しいところもあるが、どれくらい前に開催が難しいと判断するのか、その判断基準があれば教えてもらいたい。

植木区長：ご心配いただきありがとうございます。第7波については、感染者数は高止まってはいるものの若干落ち着いてきていると感じています。基本的には何らかの行動制限がかかるようになれば、開催はできないであろうと考えています。行動制限がかからない状況であれば、上瀬谷のはらっぱでの開催は最後になるということもあり、先ほど申し上げたようなできる限りの感染対策をとりながら、来場する皆様にもご協力をいただいた上で開催してまいりたいと実行委員会の皆さんともお話をさせていただいています。

川口議員：以前に台風で中止になったことがあったが、前日に中止が発表されたことがあった。行動制限が一つの基準であることが理解できた。今回瀬谷フェスティバルで飲食店の皆様が様々なことを用意したうえで参加なさることもあると思うので、行動制限等中止の判断の基準に達した時には迅速に伝えていただきたい。

検温と消毒をするということであったが、来場者数が5万人近くとされている中で、5万人が事実であれば、検温や消毒、消毒はそれぞれでやっていただくにせよ、かなり大変なことだと思うがそのための人員は用意できるのか。

村上副区長：ご心配いただきありがとうございます。当然大勢の来場が見込まれるため、複数の検温のラインを設けることを考えています。場合によっては、ボランティアの協力もいただきながら進めてまいりたい。

川口議員：この庁舎に入った時に瀬谷 free Wi-Fi というものが入り、パスワードを要求された。今この場で開いてみると、Wi-Fi の電波は拾えていない。庁舎に Wi-Fi 環境があるのか。

森田総務課長：区民用の Wi-Fi として2階部分に設置しています。職員用の無線 LAN は今後整備していく予定です。

川口議員：リモートを活用することもあると思うので、我々も議会の中
でなるべく早く区庁舎にWi-Fiが整備されるよう努めてまいりたい。

この夏の救急車の状況について伺いたい。非常に大変な状況であった
ことはニュース等で理解しているが、実際瀬谷区ではどうであったか。

安平瀬谷消防署長：今年の救急は件数も非常に多い状況でした。令和3
年は1日に平均で560件でしたが、今年は6月末まで平均626件と上半
期でも多い年でした。梅雨明けが早かったせいか、6月に入ってから
は熱中症も始まり、市内全域で救急が多くなっています。瀬谷消防署
には4台の救急車がありますが、市内全域に出動するため全体の状況に引
張られるということとなります。7月の中頃くらいから、熱中症やコロ
ナの第7波の影響もあり、朝出動して夕方帰ってくる、出先から出先へ
という救急の状況でした。市全体でも、非常用の救急車に人員を充てて
救急車の台数を増やしたり、瀬谷消防署は昼間の時間帯をカバーする救
急隊がありますが、その運用を夕方以降もその車を使って22時、23時位
まで救急出動することとして対応しました。

川口議員：今年は6月から暑く、参議院議員選挙の手伝いでカンカン照
りの中でビラ配りしたことが今でも記憶に残っていて、肌にも残ってい
るような状況である。そこにコロナが重なっていく中で、皆さんのご尽
力があって瀬谷区の安全・安心が保たれたことを実感した。感謝申し上
げる。

商店街の活性化に関し、今レシ活バリューというものが始まっている
と思うが、区民の方からメールをいただいた。その内容は、ONEとい
うアプリの周知がもう少しあってもよいのではないか、というものであ
った。現段階で区役所としてONEというアプリやレシートを送ってい
ただくという周知をどの程度行っているのか。

松岡地域振興課長：ONEというアプリを使ったレシ活は経済局が全市
で行っているものですが、広報よこはま等でPRしながら行っている
ところですが、瀬谷区独自のレシ活も行っているなかで、2つ案内してしま
うと皆さんが戸惑われてしまわないかという懸念がありました。瀬
谷のレシ活が終了したことから、先週から始まった市のレシ活について
今後PRしてまいりたい。

川口議員：先日の議案関連でこの件を取り上げて、積極的に実施すべき
であると話させていただいた。今話があったように、いろいろな手段が

あるがために混乱を招いてしまっているところもあるのではないかと
思っている。商店街の皆様との接点を持った時に、区役所からも発信する
よう、商店街とも連携を取りながら活用の方法を周知してもらいたい。

資料 8 ページに農福連携においてヒアリングを行ったとあるが、ヒア
リングを行ってどうであったか。

吉川福祉保健課長：昨年度、市内で農福連携を行っている青葉区と都筑
区の社会福祉施設に視察を行いました。目的は農福連携の実態を把握す
るため、それぞれがやり方を工夫されていることが分かりました。い
ずれも福祉事業所がかなり熱意を持って取り組んでいる印象を受けまし
た。

川口議員：全国自治体の議会の報告を読むと、近年「農福連携」とい
うキーワードが盛んに使われるようになってきていて、少しずつトレンド
になってきていると思うところである。その中で実態は、農福連携をや
ろうとすると結構大変であることも伺っている。都筑区や青葉区はかな
り大規模なものという認識があるが、瀬谷区の中でそれをということと
なると、どれくらいのことのできるのか精査していただきたい。実際に
瀬谷区のできる規模だとか、或いは瀬谷区の中だからこそできる農福連
携の形だとか、そこまで見出しきれているか。

吉川福祉保健課長：瀬谷区の中でどのようにできるかということにつ
いては、今年の 1 月に環境創造局が市内の福祉施設に対して農福連携に
対する関心についてのアンケートを行っています。瀬谷区でご回答をいた
だいた施設にアプローチして話を伺っています。それぞれ関心があると
言っても関心の度合いもまちまちであったり、いきなり大規模では出来
ないという話もあるので、今はそうした声を聞きながら実際に瀬谷区
の中で瀬谷区なりにできる方法について、具体的に施設側のニーズを細か
く聞いて進めていくという段階です。

川口議員：今の話にもあったが、瀬谷区なりの、瀬谷区だからこそで
きる農福連携というものは産み出せるのではないかと思っている。瀬谷区
は地産地消を地で行くことができるような街だと思うので、是非農家と
の連携も進めていただきたい。

農福連携の「農」に関して、瀬谷区版の「農」は農畜産業もある中で
どこまでを範囲の中に入れていいのか。

吉川福祉保健課長：明確にここからここまでという範囲を決めている訳

ではありません。特に実際にやろうしている福祉事業所がどのようなところに関心を持っているか、どのようなことをやりたいのかによって柔軟に対応してまいりたい。ニーズがあれば、できるだけ幅広く取り組みたい。

川口議員：瀬谷区の場合、農も豊かであるので、農業だけではなく様々な果樹や畜産を営んでいるところもあるので、連携を取っていただくことが出来れば、より幅が広くて深みのある農福連携ができると考えているので検討をお願いしたい。

16 ページの瀬谷区の魅力発信・名所づくり事業の瀬谷の魅力オープンガーデン事業について、花博が開催される街として意欲的な企画であると思いつつ、毎回お尋ねしているが、安心と安全が妨げられないのか、外部の方が入ってきたり、Webでその家を映すということが、自分の観点からは少し危ないのではないかと思うが、今年に関してはどうであったか。

堀内区政推進課長：今年度も4月15日から17日、5月13日から16日を開放期間とし、また外からの見学自由期間として4月8日から5月29日まで開催しました。開放期間中は開放時間を決めた上で、参加されたご本人に必ず在宅をしていただくような形をとっています。また、外から見られる期間は、来場者の方が庭に立ち入らないよう注意喚起を行っています。Webの併用開催ですが、ホームページに庭を掲載する際には必ずご本人に確認をとり、希望しない方については情報を掲載しないという形をとっています。開催後のアンケートを実施したほか、参加された方から振り返り会でご意見を伺う場も設けていますが、今回参加会場でトラブルがあったとか、防犯上の問題があったという意見は頂戴していません。

川口議員：始まってから長いイベントであり、そろそろ瀬谷区の名物になりつつある。一方で、安心と安全をしっかり担保していただくよう、ご家庭の皆様としっかり連携を取り合ってもらいたい。

20 ページの読書との出会い応援事業について、どのような状況であったのか、雰囲気を含めて伺いたい。

小泉読書活動推進担当課長：読書活動啓発事業では読書ボランティアを対象に外部の講師を呼んで研修を受講していただき、受講者からは大変参考になったとの声をいただきました。読書スタンプラリー事業では、

区内の小中学生を対象としており、4つ集めるとマーカーなどの文房具をお渡しし、8つ集めるともう少し良いものをもらえるということで、大変好評をいただいています。学校図書館等連携事業は、区内の小学校や保育園に対して図書館の本をトラック便で貸し出すという事業で、先生方からは好評をいただいています。コロナの影響がない訳ではないが、順調に進んでいると考えています。

川口議員：コロナ禍ということについても話をいただき、また夏休みということもあったかと思うが、夏休み期間中若い人の図書館利用率は上がっていたのか。

小泉読書活動推進担当課長：夏休み期間中も大きな変動はなく、平均して500人程度利用がありました。見た限りは若い人たちも多く利用していたように思います。

川口議員：44ページのフードドライブの受付について、どういったものか深めに概要を伺いたい。

屋代資源化推進担当課長：家庭から出される燃やすごみの中に食品ロスと言われる、いわゆる手つかず食品が多く含まれており、それをそのまま焼却処理することは大変もったいないことから、食品ロスを削減するために令和2年10月から区役所と資源循環局事務所で常設の受付を行い、身近な場所で皆様からご寄付いただけるよう始めたものです。

川口議員：フードドライブもトレンドになりつつあって、多くの自治体や区で取り組み始めているものである。一方で、瀬谷区のLINEの情報を見ると、いわゆるコンポスト、生ごみを土に還していくというイベントを9月に行うということだが、そうした循環型社会に向けて資源循環局としてやっていこうとすることは、そのコンポストを含めていろいろあるのか具体的に伺いたい。

屋代資源化推進担当課長：そのとおりです。燃やすごみをいかに減らして処分地の延命を図ることが1つの課題であります。その他には土壌混合法の講習を毎月開催したり、小学校や幼稚園・保育園に出前教室で伺い、小さい頃から環境に対する考え方、方向性を知ってもらうための啓発活動も行っています。

川口議員：40ページのイルミネーション事業について、今年はどうなものになるのか。

堀内区政推進課長：今年度は11月18日から12月25日までで、点灯時

間は17時から22時までを予定しています。今年は北口駅前広場と並木側だけではなく、南口での開催も検討しています。電飾数は29,000球で色も昨年とは変更するので、楽しみにしていただけたらと思います。

川口議員：昨年は花博をイメージさせるイルミネーションがあったが、今年はあるのか。

堀内区政推進課長：相鉄にお願いして、園芸博の推進マークを瀬谷駅の壁に投影する予定です。

久保議員：先ほど生活困窮に関して、生活保護の受給者が増加傾向にあるとの話があったが、全体的にどのようなお困りの声があったのか。

中村生活支援課長：瀬谷区では令和3年度一番多かったのは仕事がないというもので、そうした方に対しては就労支援を行っています。また、家計の収支バランスが崩れて、家計のやりくりの指導をして欲しい、というものが多くなっています。その他には住居の相談や子供の学習に困っているという声が多くなっております。

久保議員：コロナ禍ということで様々な相談が寄せられていると思うが、親切・丁寧によりきめ細かく寄り添ってほしい。

10ページの市営南台ハイツ「高齢者生活相談所」運営支援事業については、令和4年3月からLSAに移行していると思うが、移行してその後どのような状況になっているのか教えて欲しい。

小西高齢・障害支援課長：今年の3月から下瀬谷地域ケアプラザを運営する社会福祉法人同塵会によって生活援助員派遣事業が開始され、順調にスタートしています。開始直後は全世帯への案内チラシを配布したり、地域の会報で生活援助員派遣事業の説明をしっかりとさせていただきながら、見守りが必要な方の世帯の把握に努めてきました。直近の状況については、新規に訪問した世帯が416世帯、その中で見守りの登録世帯として11世帯を把握しています。また、電話や訪問による相談を丁寧に実施させていただいており、今後もこの地域のより多くの方々の見守りの相談等を行って、高齢者支援の取組が推進されるものと期待しています。

久保議員：高齢化は南台でも進んでいると承知しているので、まだこれからだと思うが、7名とも10名とも聞いているが、より一層登録される方が増えることが望ましいのか、あるいは登録しなくとも自立できることがいいのか悩ましいところであるが、よろしくお願ひしたい。

こちらで移動サービスも行っていると思うが、よく区民の方から瀬谷区内の移動については非常に不自由だという声をいただく。昨日もニュータウンの方から大和方面に向かうバスがあるが途中で瀬谷駅付近にも寄って欲しいとか、三ツ境駅に向かうバスは途中で瀬谷センターを経由するが瀬谷駅付近にも寄って欲しいし、本数も少ないので実際は大和に行く、という話を伺った。山坂の多い阿久和東の方や本郷に行ったら大和に向かうミニバスが走っているが、その意味では移動支援があつて林理事長が言うには、南区で新たに拡充する意気込みがあるようだが、その前に瀬谷方面をもっと拡充して欲しいと思う。移動支援について、より一層サポートする考えはあるのか。

小西高齢・障害支援課長：区内は福祉運送輸送の事業者が非常に少ない中で、NPO法人せやにはかなり実施していただいています。コロナで受診控えや外出する方も少し減っているようで、実績もなかなか伸びていかないと聞いています。この事業者を利用される方の中には介護が必要な方もいらっしゃる。区役所としてはケアマネージャーや介護事業者への周知に協力してまいりたい。

久保議員：タクシー事業者など様々な方との兼ね合いもあると思うが、高齢者の区民の方にとっては免許を返納した後の移動への配慮といった側面も強化してもらいたい。

「ぽかぽかプラザ」の拠点について、区づくり推進費で年間50万円支援しているとのことだが、その効果について伺いたい。

小西高齢・障害支援課長：ぽかぽかプラザについては、コロナ感染症が急拡大したため、長い間閉鎖していました。昨年11月頃から徐々に再開しましたが、長期間閉鎖していたこともあり、場所の周知から始めていかないとならない状況です。地域の方々も地域にとって何が必要かなど検討しようとして動き出しています。高齢化率が高い地域であることから、区としても高齢者や子育て世代など多世代の方が交流できる場所として有効に活用できるよう引き続き支援してまいりたい。

久保議員：阿久和団地においては高齢が進んでいるが、地域のコミュニティの担い手が高齢化することによって、自治会の担い手も苦勞していると聞く。一つの象徴として阿久和小学校がいずみ野小学校と統合されるということもある。子育て世代が増えることが望ましいかもしれないが、片や外国の方、外国の児童も多数いる。そのようなことを含めて、

拡充してもらえればという声も伺っているので、意見として申し上げておく。

13 ページの地域防災力向上事業の体験型防災プログラムについて、Web開催との記載があるが、やはり防災・減災について考え、体験していくことは大事なことである。小さい時から様々なことに興味を持つ、触れ合っていくことも大事である。Webで開催したということもあるので、どのような工夫をして取り組んだのか伺いたい。

森田総務課長：子供と保護者を対象としたWeb開催を実施しました。地域の防災訓練では、高齢の方や特定の方が参加されることが多いので、今回お子さんや保護者を中心にWebで開催しました。クイズや謎解きを交えながら非常に大事なことを学ぶということで、アンケートを実施した結果も好評を得ることができたと考えています。

久保議員：地震や風水害などテーマはあったのか。

森田総務課長：昨年度は地震をテーマとして開催しました。事前に準備しておくこと、またいざという時にどのような行動をとればよいのかということについて子供でも学べるようにクイズ形式で実施しました。今年度は風水害を中心に実施する方向で調整を行っています。

久保議員：風水害については、瀬谷区全域ではないがまだまだ雨水幹線等整備を行っているところであるが、部分的に警戒区域もあるため、予期せぬ災害も起きるかもしれない。神奈川区の横浜市民防災センターでは風水害体験ツアーも行っており、体験型で実施することはよいことである。しっかりしたものを実施して欲しい。

40 ページの定住促進に向けた取り組みについて、今回不動産ポータルサイトのSUUMOと連携したということだが、実際どのような効果検証を行っているのか。相鉄線と東急線の直通により都心へのアクセス向上などのPRなど工夫を行っているのか。またターゲットはどのような年齢層を想定しているのか伺いたい。

堀内区政推進課長：SUUMOのホームページに瀬谷区の魅力を紹介するページを設け、年度末の引っ越し時期を見据えて12～2月の3か月間広告PRを行いました。実績としては、ページの閲覧回数は4,204回でした。またSUUMOに掲載の瀬谷区の物件に関する資料請求数は前年度同期間に比べて73.4%増加しました。なかなか効果検証は難しいところではありますが、一定の成果はあったものと考えています。子育て世代

をターゲットとしており、今年度も引き続きこのポータルサイトを使ってPRを行ってまいりたい。PRの内容はお話のあったとおり、交通の利便性向上や公園等が多くて子育てしやすいという点について、実際に区民の方にモデルになっていただいてPRを行いました。

久保議員：賃貸と分譲両方とのことだが、まずは賃貸で住んでみて、その後家を購入するという方もいるかもしれない。より拡充し、瀬谷区の高齢化、人口減少対策としてプラスとなるように取り組んで欲しい。

42 ページのまちづくり調整で瀬谷駅周辺の活性化に向けた検討とある。2027年に開催予定の花博では瀬谷駅がその玄関口になるため活性化に向けた検討を行っているとのことだが、具体的にどのような検討を行っているのか伺いたい。

堀内区政推進課長：瀬谷駅については、これから局でハード整備が行われていくところですが、ソフト面の取り組みも必要と考えており、周辺環境の変化を見据えて、住民の皆様が主体となって考えて、どのような活性化ができるのか検討を行ってまいりたい。主に現在北口駅前広場の駐輪場の管理を行っている瀬谷駅北口駅前広場活性化協議会と意見交換する場を設けて、8月に会議を開催し、まずは試行的な活動ということで、北口広場でどのようなことができるのか議論いただいています。今後、実際に活動しながら様々議論を重ねていき、将来的には花博に向けて環境が変わっていく中で、そうした環境の変化を受け止められる団体として活動していただくことを目標としています。

久保議員：南口については、第一地区と合わせて再開発の検討が進められているが、都市整備局の予算審査で南口におけるまちづくりの今後の展開について質問した際に、当然ポテンシャルについては認識しており、南口全体の活性化に繋がるような地域発意のまちづくりを行うとの答弁を受けた。地権者の理解も得ながら、地域発意のまちづくりを行っていくのか。

堀内区政推進課長：現在、北口駅前広場活性化協議会を中心に進めています。北口に限るのではなく、南口を含めた瀬谷駅周辺について議論ができるような場にできるよう、団体の支援を進めてまいりたい。

久保議員：地域の様々な声があるかと思うが、瀬谷駅のポテンシャルが高まるよう強く認識していただき取り組んでもらいたい。

	<p>47 ページの瀬谷フェスティバルについては、すでに2人の先生から質問があり、これ以上伺うことはないかもしれないが、過去のフェスティバルの映像をまとめて公開していると聞いている。その反響はどうか。</p> <p>松岡地域振興課長：映像をまとめるにあたっては、今まで出演・出店していただいた団体の皆さんから写真やデータを提供していただきました。実際に映像にしたところ、出演・出店した方の多くにご覧いただき「懐かしい」とか「こんなことがあった」「こんなかたちだった」などの声をいただいています。</p> <p>久保議員：映像でみることも良かったが、やはり実際にあの場所で開催することが一番望ましいと思うので、感染対策を講じながら工夫を凝らした取り組みをお願いしたい。</p> <p>お配りいただいたおくやみハンドブックについては、以前この市会議員会議の場でも要望を行ったが、市議団としてもかねて2つ要望があり、1つは死亡手続きについて非常に煩雑であるというご遺族の声が多かったとの声を受け、可能であれば一元化したワンストップの窓口を設けて欲しいということ、もう1つはハンドブックを作成してもらいたいということであった。先月31日におくやみハンドブックをホームページにもアップしていただいたことについて感謝申し上げます。</p> <p>花上議員：「令和5年度瀬谷区個性ある区づくり推進費予算編成にあたって」の3に「自治会・町内会や商店街などの地域における活動」とあるが、横浜市では一般的には「商店街」ではなく「経済界」としている。区内には商店街だけではなく、企業も立地して納税していただいている。「商店街」とするよりも「経済界」として、より幅広い捉え方をすべきと考えるがどうか。</p> <p>植木区長：瀬谷区では西部工業会という形でも企業の皆様に活動していただいています。その点を踏まえて、実際の予算編成の際にはいただいた意見を反映させてまいりたい。</p>
備 考	